

イエスのことば 第29回

イエスは彼らに「行け」と言われた。(マタイ 8:32)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 「承」の部において、12 の権威を見た。
2. 続いて、ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。この後、「承」の部の結末、メシア拒否に入った。
3. 拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。獄中にあったヨハネは、イエスが本当にメシアかどうか迷って、イエスに質問を送った。しかし、イエスはヨハネを高く評価し、彼はメシアの先駆者としての使命を完全に果たしたと語った。そして、真の問題は、ヨハネとイエスを受け入れようとしない指導者層にあると教えた。
4. イエスは、多くのしるしを見せてきたガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰を責めた。そして、拒否を目前にしていた時期における出来事が 2 つあった。
 - (1) 指導者層のひとりが、イエスを批判する口実を見つけようとして、イエスを食事に招いた。このとき、ある一人の「罪人」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示した。
 - (2) 第 3 次宣教旅行。イエスは拒否を目前にしてもなお、神の国の福音を宣べ伝え続けた。このとき、多くの女性たちが自分の財産をもって一行に仕えた。
5. そして、ついに指導者層が公式に、イエスをメシアではないと拒否した。理由は「イエスは汚れた霊につかれている」であった。イエスは、その理由を 4 つの点で論破し、この拒否を「聖霊を冒瀆する罪」と呼んだ。この民族的な罪は、2 つの結果をもたらすことになった。
 - (1) この世代のイスラエルに提供されようとしていた神の国は、将来の世代に
 - (2) この邪悪な世代に対しての裁き（紀元 70 年、エルサレム陥落・神殿崩壊）
6. 指導者層による公式拒否を受けて、イエスの宣教活動に大きな変化が起きた。そのような変化には、二つある。一つは、しるしに関して、もう一つは、教え方に関して。
7. しるしに関して
 - (1) 拒否を受けてその場で、イエスは、しるしに関する新しい方針を、指導者層に示

した。今後、イエスがメシアであることを示すしとしてイスラエル民族に与えられるのは、「ヨナのしるし」のみ、すなわち復活のしるしのみである。

- (2) イエスは、その後も奇跡を行ったが、それは、弟子たちに対してメシアとしての権威を示すためである。イスラエル民族に対してのしるしは、ヨナのしるししか与えられない。それまでの奇跡は、ご自身がメシアであることを示すしとして公然と人々の面前で行われた。そのとき、癒しなどを受ける人の側にイエスをメシアとして信じる信仰があるかどうかは、問われなかった。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスはもはや公然と奇蹟を行わない。人々の目のつかない場所に移動して行き、かつ、受ける人の側に信仰があることが条件となる。

8. 教え方に関して

- (1) イエスは、拒否を受けたその日、たとえで群衆に語り始められた。その日のうちに、イエスは5つのたとえ話を群衆に、さらに4つのたとえ話を弟子たちに、合わせて9つのたとえ話を語った。そのテーマは、「奥義としての神の国」についてであった。イエスが、たとえ話をういた目的は二つあった。

① **あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されています**・・・目的の第一、弟子たちには効果的に理解させること。イエスは、群衆にたとえで語った後に、弟子たちには意味を解説した。たとえ話に解説が加わることで、「奥義としての神の国」について、あたかもイラスト付きで理解させるような効果がもたらされた。

② **あの人たちには許されていません**・・・目的の第二、群衆には、たとえ話を語ったところで止めて、「奥義としての神の国」の情報を隠す。

- (2) メッセージの内容も変わった。それまでは、イスラエルの各地を巡り、町々で、ご自身がメシアであると宣言し、だから神の国は近づいたと説いた。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスをメシアであると宣伝することは禁止される（たとえば、マタイ 16:20）。この沈黙の方針が撤回されるのは、マタイ 28章 18~20節の大宣教命令においてである。

9. 公式拒否を受けた日、イエスが群衆に教えている最中に、イエスの母と弟たちが来てイエスを連れ帰ろうとした。このとき、イエスは、地上での血縁関係をすべて切って、信者との霊的關係のみを受け入れた。

10. 前回は、弟子たちに対するレッスン1であった。拒否の日の夕方から、日没後にかけて、ガリラヤ湖を舟で航行中に起きた出来事。イエスが風と波を鎮めて、自然を制する力を持っていることを弟子たちに示した。「弟子訓練」の転の部にはまだ入っていないが、弟子たちに対するレッスンは、拒否を受けた日から始まった。

□今回は、向こう岸に渡ってすぐに起きた出来事、レッスン2である。悪霊たちはイエスを恐れ、イエスは悪霊たちを制する力を持っておられることを弟子たちに示した。

1. 悪霊につかれた人（ルカ 8：26～27、29a、マルコ 5：1～5、マタイ 8：28）
 - (1) ルカ 8：26～27、こうして彼らは、舟で、ガリラヤの反対側にあるゲラサ人の地に着いた。イエスが陸に上がられると、その町の者で、悪霊につかれています。男がイエスを迎えた。彼は長い間、服を身に着けず、家に住まないで墓場に住んでいた。
 - (2) ルカ 8：29b 汚れた霊はこの人を何回も捕らえていた。彼は鎖と足かせでつながれて監視されていたが、それらを断ち切っては、悪霊によって荒野に駆り立てられていた。
 - (3) マルコ 5：1～5 こうして一行は、湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊につかれた人が、墓から出て来てイエスを迎えた。この人は墓場に住みついていて、もはやだれも、鎖を使ってでも、彼を縛っておくことができなかった。彼はたびたび足かせと鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまい、だれにも彼を押さえることはできなかった。それで、夜も昼も墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていたのである。
 - (4) マタイ 8：28 さて、イエスが向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかれた人が二人、墓場から出て来てイエスを迎えた。彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。

2. イエスを見ての反応（マルコ 5：6～8、ルカ 8：28、マタイ 8：29）
 - (1) マルコ 5：6～8
 - ① 6節 彼は遠くからイエスを見つけ、走って来て拝した。
 - ② 8節 イエスは、「汚れた霊よ、この人から出て行け」と言われた。
 - ③ 7節 (彼は) 大声で叫んで言った。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。神によってお願いします。私を苦しめないでください。」
 - (2) ルカ 8：28～29a
 - ① 28節 彼はイエスを見ると叫び声をあげ、御前にひれ伏した
 - ② 29節 a イエスが汚れた霊に、この人から出て行くように命じられた
 - ③ 28節 (彼は) 大声で言った。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。お願いします。私を苦しめないでください。」
 - (3) マタイ 8：29 「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちに苦しめに来たのですか。」

悪霊が恐れる「苦しみ」の時とは、「悪魔とその使いのために用意された永遠の火」（マタイ 25：41）に入る時、すなわち黙示録 20：10「火と硫黄の池」のさばき

3. イエスは悪霊の名を尋ねる (ルカ 8:30、マルコ 5:9)
 - (1) ルカ 8:30 イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「レギオンです」と答えた。悪霊が大勢彼に入っていたからである。
 - (2) マルコ 5:9 イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「私の名はレギオンです。私たちは大勢ですから」と言った。
4. 悪霊たちの懇願 (マルコ 5:10~12、ルカ 8:31~32a、マタイ 8:30~31)
 - (1) マルコ 5:10~12 そして、自分たちをこの地方から追い出さないでください、と懇願した。ところで、その山腹では、おびただしい豚の群れが飼われていた。彼らはイエスに懇願して言った。「私たちが豚に入れるように、豚の中に送ってください。」
 - (2) ルカ 8:31~32a 悪霊たちはイエスに、底知れぬ所 (アビス) に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。ちょうど、そのあたりの山に、たくさんの豚の群れが飼われていたので、悪霊たちは、その豚に入ることを許してくださいと懇願した。
 - (3) マタイ 8:30~31 そこから離れたところに、多くの豚の群れが飼われていた。悪霊たちはイエスに懇願して、「私たちを追い出そうとされるのであれば、豚の群れの中に送ってください」と言った。
5. 豚の数 2 千頭、湖へ (マルコ 5:13、マタイ 8:32、ルカ 8:32b~33)
 - (1) マルコ 5:13 イエスはそれを許された。それで、汚れた霊たちは出て行って豚に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、その湖でおぼれて死んだ。
 - (2) ルカ 8:32b~33 イエスはそれを許された。悪霊たちはその人から出て、豚に入った。すると豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれて死んだ。
 - (3) マタイ 8:32 イエスは彼らに「行け」と言われた。それで悪霊たちは出て行って豚に入った。すると見よ。その群れ全体が崖を下って湖になだれ込み、水におぼれて死んだ。
6. その後
 - (1) 豚の牧童たちは町へ帰って報告 (マルコ 5:14、マタイ 8:33、ルカ 8:34)
 - (2) 悪霊を追い出してもらった人 (マルコ 5:15、ルカ 8:35~36)
 - (3) 町の人々の反応 (マルコ 5:16~17、マタイ 8:34、ルカ 8:37)
 - (4) 二人のうち一人は、イエスの弟子となることを望んだ (マルコ 5:18、ルカ 8:38)
 - (5) イエスの指示 (マルコ 5:19、ルカ 8:39a)
 - (6) 証言 (マルコ 5:20、ルカ 8:39b、→ 4千人の給食 マルコ 7:31~8:10)